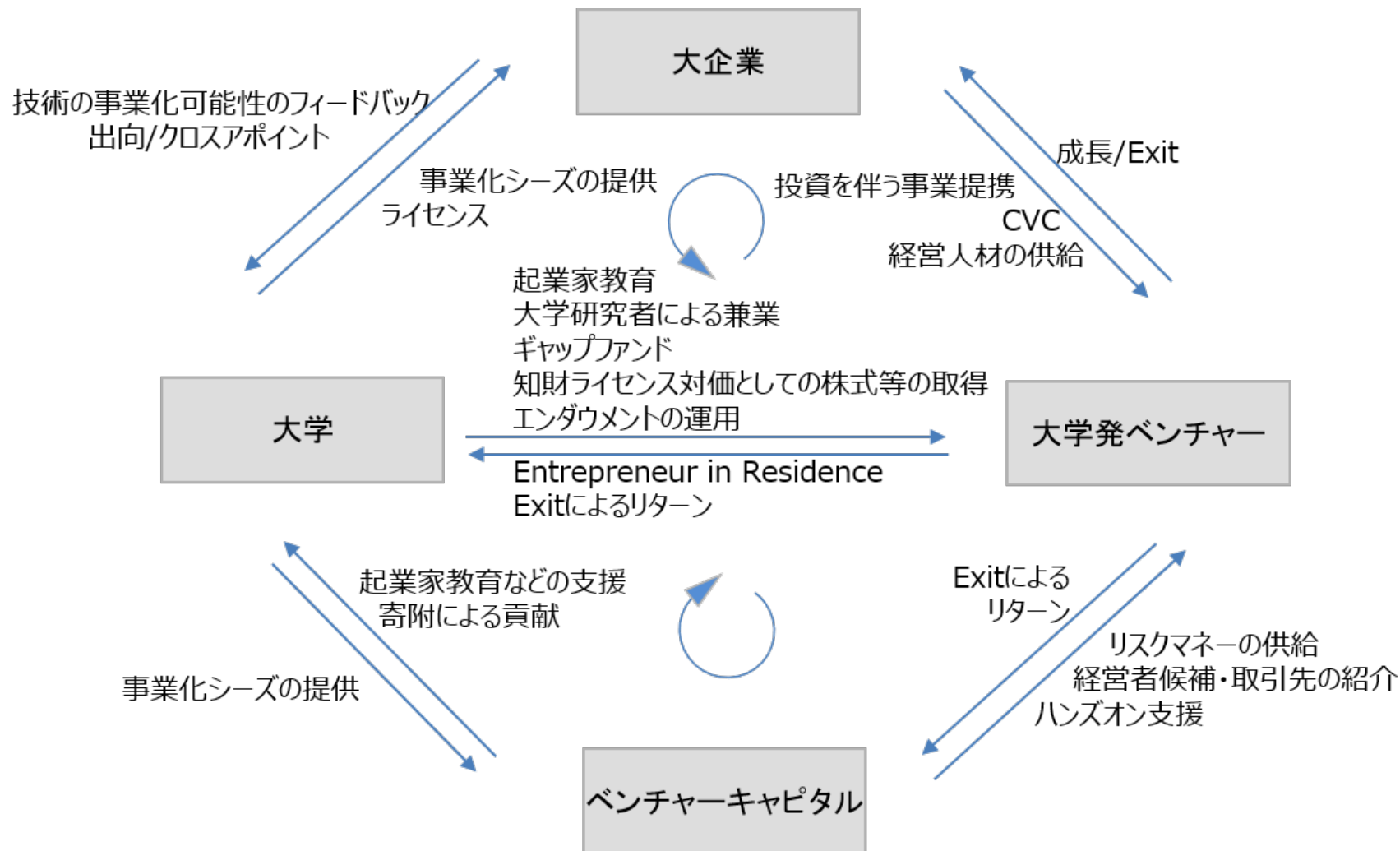


# 大学発ベンチャーのあり方研究会 報告書【概要】

平成30年6月

# 大学発ベンチャーの創出・成長に向けたエコシステム

- 大学発ベンチャーの創出・成長に向けては、大学、大企業、ベンチャーキャピタルがそれぞれの立場から大学発ベンチャーを支援し、また大学発ベンチャーが成長した際には、利益やノウハウ等の各方面への環流が期待される。



# 大学発ベンチャーの創出・成長にかかる課題と方策

- 大学発ベンチャー（以下「大学発VB」）の創出・成長に向けては、大学、大企業、ベンチャーキャピタル、大学発VBの間で人材、資金、知財・知識の好循環を形成していくことが必要である。

	課題	方策
人材	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大学発VBの経営者には、大学関係者に限らず適切な人材の確保が必要</li><li>・ 大学教員の兼業ルール・運用が不明確</li><li>・ 大学発VBの支援人材が不足</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 起業家教育</li><li>・ Entrepreneur in Residence (EIR)</li><li>・ 大企業等における副業・兼業の促進</li><li>・ 知財・資本戦略を助言する人材の養成 等</li></ul>
資金	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基礎研究からPoC (Proof of Concept) を取得するまでの資金供給が低調</li><li>・ 大学からライセンスや施設提供を受ける資金が不足</li><li>・ リスクマネー供給主体の不足</li><li>・ 民間資金を得るまでの政府支援の有効活用が必要</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ギャップファンドの充実</li><li>・ 大学による大学発VBのエクイティ取得</li><li>・ ベンチャーキャピタルと大学の連携</li><li>・ エンダウメント（寄附）の拡大、海外資金の呼び込み</li><li>・ 公共調達推進 等</li></ul>
知財・知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特許の出願内容が狭く外国特許の取得も疎かのため、商業化につながらない</li><li>・ 特許の存続期間等に連動し機械的に特許を放棄している</li><li>・ データの利活用権限が曖昧</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特許取得にかかる費用支援のためのギャップファンドの充実</li><li>・ ベンチャーキャピタル等、外部人材によるシーズの早期評価</li><li>・ 知財・資本戦略を助言する人材の養成</li><li>・ 「AI・データの利用に関する契約ガイドライン」を踏まえた契約締結 等</li></ul>

# 大学・大企業に期待される役割、地方におけるエコシステム

- 大学発VBの創出・成長に向けては、大学、大企業に期待される役割も大きい。
- また、地方における大学発VBの創出・成長に向けては、人材確保・情報収集の仕組み作りが重要である。

## 大学・大企業に期待される役割

大学

- ・ 研究成果の社会実装をKPIに据える等、大学発VBの創出・成長に向けた大学経営
- ・ 自大学発のVBの情報発信等を通じたブランディング支援
- ・ 大学発ベンチャーの創出・成長を担う人材を育成・確保
- ・ 大学発VBに対し大学設備等を提供
- ・ 新技術発見から大学発VB創出までのトータルマネジメント

大企業

- ・ 以下①～④のような形を通じた大学発VBとの連携を促進
  - ①大学発VBの調達元となる
  - ②大学発VBと協働して研究開発等を行う
  - ③コーポレート・ベンチャーキャピタルを通じ大学発VBへ投資を行う
  - ④大学発VBのM&Aを行う
- ・ 大学や大学発ベンチャーとの副業・兼業を促進

## 地方における大学発VB創出・成長に向けたエコシステム

地方

- ・ 都市圏に集積している資金や情報の地方での活用に向けたインフラの構築
- ・ 人材確保に向けた住環境の整備